

平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 シーマ  
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白石 幸栄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長 (氏名) 松橋 英一

四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日

TEL 03-3567-8098

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	5,691	0.6	314	—	314	—	135	—
22年3月期第2四半期	5,660	△3.1	△22	—	△33	—	△90	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	0.74	—
22年3月期第2四半期	△0.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	9,479	5,743	60.6	31.25
22年3月期	9,323	5,607	60.1	30.51

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 5,743百万円 22年3月期 5,607百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,718	2.3	634	154.3	608	171.5	316	—	1.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 183,765,644株 22年3月期 183,765,644株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 738株 22年3月期 725株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 183,764,913株 22年3月期2Q 183,764,965株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、四半期決算短信（添付書類）P. 4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）におけるわが国経済は、アジアを中心とした世界経済の改善や各種政策効果などを背景に、企業収益は改善してきているものの、このところ環境の厳しさが増してきており、雇用情勢においても失業率が高水準となるなど、依然として厳しい状況が続きました。

また、景気の先行きについては、海外景気の下振れ懸念や、円高やデフレーションの進行など、景気を下押しするリスクが未だ存在するなど、先行き不透明な状況が続いています。

このような経済状況のもと、当社グループの主力であるブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等）は、平成22年3月期には景気悪化による個人消費の低迷などにより、業績に大きく影響する結果となりました。

しかしながら、当社はこの厳しい状況下に早期に対応し、組織改革などによる営業の強化、経費削減を前期に引き続き全社で取り組みました。その効果が当期に発現し、売上は前年同四半期を上回り、特に営業利益、経常利益においては、期初計画に対し大幅に高い実績を達成することができました。（期初予想を修正しています。詳細は、「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。）

結果として、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高56億91百万円（前年同四半期比0.6%増）、営業利益3億14百万円（前年同四半期は営業損失22百万円）、経常利益3億14百万円（前年同四半期は経常損失33百万円）、四半期純利益1億35百万円（前年同四半期は四半期純損失90百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等）の個別業績は、売上高56億91百万円（前年同四半期比3.1%増）、営業利益3億16百万円（前年同四半期は営業損失14百万円）となりました。

当社は、少子化・晩婚化などにより縮小傾向にあるブライダルジュエリー市場での市場シェアをさらに拡大し、顧客満足度を向上させるべく、社員教育の充実に注力しました。

当社では、お客様に対する極め細やかで質の高いサービスを提供するためのアイデアを皆で検討し、それを実現していく風土を作り出しています。これにより、社員一人ひとりの意識が向上しました。

また、集客面においては、全社で推進している集客増への取組みだけでなく、集客ソースの見直しをはかるとともに、積極的な販売促進活動を実施しました。

なお、当第2四半期連結累計期間の売上総利益率は67.6%となり、高い水準を維持しました。

今後も、個人消費の低迷などによるお客様の商品購入単価の低下は予想されますが、お客様への質の高いサービスを提供し続け、業界トップの地位を確立すべく、取り組む所存です。

当第2四半期連結累計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

#### 1) 商品力強化

第1四半期連結累計期間に発表した商品に加え、当第2四半期連結会計期間に以下の新商品を発表しました。

（銀座ダイヤモンドシライシ）

- ・新作エンゲージリング“Saint glare（セント・グレア）”を7月23日に発表。
- ・新作マリッジリング“Foglia（フォーリア）”と“Creer（クレール）”を8月21日に発表。

（ホワイトベル）

- ・新作セットリング“Lovers（ラバース）”を9月23日に発表。

#### 2) 全国ホテル・式場との提携数の増大と提携関係のさらなる強化

#### 3) 集客力強化

独自のノウハウをもとに開始した集客活動を全国各地で積極的に実施しました。

#### 4) ティアラ・レンタルサービスの好調な伸び

ドレスショップなどの提携先企業数の増加などにより、売上は前年同四半期と比較して、大幅に伸長しました。

また、ブランド別の売上、販売・サービス別の売上は、以下のとおりです。

①ブランド別売上高

セグメントの名称	ブランドの名称など	当第2四半期連結累計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比 (%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	3,488,234	107.6	61.3
	エクセルコダイヤモンド	1,866,729	96.4	32.8
	ホワイトベル	302,804	94.1	5.3
	その他(注)2	34,026	183.2	0.6
合 計		5,691,795	100.6	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部門売上など本社関連の売上となっています。

②販売・サービス別売上高

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第2四半期連結累計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比 (%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	5,320,721	101.4	93.5
	ファッションジュエリー販売	216,419	152.5	3.8
	ギフト販売	82,774	94.7	1.4
	ウエディング送客サービス	22,117	120.6	0.4
	その他(注)2	49,762	208.7	0.9
合 計		5,691,795	100.6	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### ①資産、負債、純資産の状況

#### (資産の部)

流動資産は、商品及び製品が減少したものの、現金及び預金が大幅に増加したため、前連結会計年度末に比べて1億81百万円増加して64億54百万円となりました。また、固定資産は、新店の建設協力金・工事負担金の発生により長期貸付金や長期前払費用が増加したものの、償却により有形固定資産が減少したため、前連結会計年度末に比べて25百万円減少し、30億25百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて1億56百万円増加し、94億79百万円となりました。

#### (負債の部)

流動負債は、未払金及び未払費用、1年内償還予定の社債が増加したものの、短期借入金の返済をしたため、前連結会計年度末に比べて2億46百万円減少し、29億29百万円となりました。固定負債は、長期借入金の返済をしたものの、財務政策上、社債を発行したため、前連結会計年度末に比べて2億66百万円増加し、8億7百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて20百万円増加し、37億36百万円となりました。

#### (純資産の部)

純資産合計は、利益剰余金などの増加により、前連結会計年度末に比べて1億35百万円増加し、57億43百万円となりました。

結果として、自己資本比率は60.6%となり、当第2四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は31円25銭となりました。

### ②キャッシュフローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は12億53百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億85百万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、7億47百万円の収入(前年同四半期は17百万円の支出)となりました。前年同四半期比で、営業収入が59億36百万円(前年同四半期比1.0%増)と増加したことや原材料又は商品の仕入れによる支出が16億95百万円(同12.5%減)、人件費の支出が11億78百万円(同13.6%減)と減少した結果です。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、65百万円の支出(前年同四半期比76.8%減)となりました。主に新規出店費用などの有形固定資産の取得による支出が51百万円(同81.9%減)と減少した結果です。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億96百万円の支出(前年同四半期は6百万円の支出)となりました。これは、短期借入金を返済すると共に、長期・短期とも、新規の借入れを行わなかったためです。また、財務政策上、社債を発行し、短期借入金の返済に充てた結果です。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社は、平成22年11月5日公表の「平成23年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、当第2四半期連結累計期間の業績予想(連結・個別)を修正しています。前項の「(1) 連結経営成績に関する定性的情報」にて記載のとおり、国内の景気は先行き不透明な状況が続いていることや、当社グループを取り巻く主な事業環境であるプライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化が今後も予想されることなどから、通期の業績予想(連結・個別)の変更はありません。

当社では、少子化・晩婚化や顧客ニーズの変化などにより、将来縮小傾向にある市場を見据え、厳しい事業環境で勝ち残れる企業体質にすべく、営業体制を強化し事業基盤を強化するとともに、他のブランドより質の高い接客・サービスを提供することにより、収益の拡大をはかり、業界での地位を確固たるものにしていきます。

当社グループの当連結会計年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性や業界における先駆的な施策などにより、予想に対し堅調に推移するものと見込んでいます。

当社グループでは、これらの状況を踏まえて、プライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を効果的に行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指します。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社グループは、プライダルジュエリー業界における優位性を活かし、収益の最大化に努めます。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

#### 2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ・会計処理基準に関する事項の変更

「資産除去債務に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,253,263	767,834
受取手形及び売掛金	422,123	420,282
商品及び製品	4,449,455	4,688,377
原材料及び貯蔵品	114,405	123,408
前払費用	93,180	102,375
繰延税金資産	124,836	146,529
その他	15,915	44,520
貸倒引当金	△19,164	△20,609
流動資産合計	6,454,016	6,272,718
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	767,205	823,267
車両運搬具（純額）	126	165
工具、器具及び備品（純額）	950,449	934,975
建設仮勘定	5,449	1,378
有形固定資産合計	1,723,230	1,759,787
無形固定資産		
ソフトウェア	42,650	37,464
電話加入権	4,932	4,932
無形固定資産合計	47,583	42,396
投資その他の資産		
長期前払費用	41,142	39,019
長期貸付金	10,487	—
敷金及び保証金	1,095,145	1,105,244
繰延税金資産	105,261	101,586
その他	2,773	2,377
貸倒引当金	△307	—
投資その他の資産合計	1,254,504	1,248,226
固定資産合計	3,025,318	3,050,410
資産合計	9,479,334	9,323,129



(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	332,725	349,027
短期借入金	1,115,025	1,625,028
1年内償還予定の社債	100,000	—
1年内返済予定の長期借入金	288,336	316,048
未払金及び未払費用	497,047	372,005
未払法人税等	181,723	175,830
前受金	177,250	179,672
その他	237,110	157,814
流動負債合計	2,929,220	3,175,427
固定負債		
社債	400,000	—
長期借入金	135,096	265,872
退職給付引当金	202,600	187,930
長期未払金	69,354	86,676
固定負債合計	807,051	540,479
負債合計	3,736,271	3,715,907
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,426,178	2,290,714
自己株式	△72	△72
株主資本合計	5,740,492	5,605,028
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	2,570	2,194
評価・換算差額等合計	2,570	2,194
純資産合計	5,743,062	5,607,222
負債純資産合計	9,479,334	9,323,129

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	5,660,500	5,691,795
売上原価	1,790,064	1,844,462
売上総利益	3,870,435	3,847,333
販売費及び一般管理費	3,893,041	3,532,797
営業利益又は営業損失(△)	△22,605	314,535
営業外収益		
受取利息	49	146
為替差益	1,942	19,561
未払配当金除斥益	3,773	4,523
その他	1,544	738
営業外収益合計	7,309	24,969
営業外費用		
支払利息	18,146	14,641
社債発行費	—	10,039
その他	26	307
営業外費用合計	18,173	24,988
経常利益又は経常損失(△)	△33,468	314,516
特別利益		
貸倒引当金戻入額	971	1,445
不正事故損失回収益	—	11,334
特別利益合計	971	12,779
特別損失		
固定資産除却損	—	6,234
過年度退職給付費用	67,832	—
特別損失合計	67,832	6,234
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△100,329	321,061
法人税、住民税及び事業税	16,271	167,662
法人税等調整額	△26,361	18,016
法人税等合計	△10,090	185,679
少数株主損益調整前四半期純利益	—	135,382
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△90,239	135,382

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
営業収入	5,875,681	5,936,909
原材料又は商品の仕入れによる支出	△1,939,228	△1,695,917
人件費の支出	△1,364,173	△1,178,379
その他の営業支出	△2,406,574	△2,180,364
小計	165,705	882,247
利息及び配当金の受取額	39	25
利息の支払額	△18,269	△14,232
その他の収入	5,230	41,890
その他の支出	△15	△757
法人税等の支払額	△170,143	△161,543
営業活動によるキャッシュ・フロー	△17,453	747,630
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△282,979	△51,159
無形固定資産の取得による支出	△11,863	△9,925
敷金及び保証金の差入による支出	△1,473	△4,920
敷金及び保証金の回収による収入	14,049	14,718
短期貸付けによる支出	—	△2,373
建設協力金の支払による支出	—	△12,500
建設協力金の回収による収入	—	1,680
その他の支出	△174	△919
投資活動によるキャッシュ・フロー	△282,440	△65,397
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	500,000	—
短期借入金の返済による支出	△530,084	△510,002
長期借入れによる収入	350,000	—
長期借入金の返済による支出	△146,336	△175,810
社債の発行による収入	—	489,458
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△180,010	△419
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,431	△196,774
現金及び現金同等物に係る換算差額	118	△30
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△306,208	485,428
現金及び現金同等物の期首残高	905,426	767,834
現金及び現金同等物の四半期末残高	599,217	1,253,263

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウェディング プロデュース 事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,519,048	141,451	5,660,500	—	5,660,500
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	374	619	994	△994	—
計	5,519,423	142,071	5,661,494	△994	5,660,500
営業利益又は営業損失(△)	△15,829	△6,775	△22,605	—	△22,605

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウェディングプロデュース事業	オリーブの丘

3. 前第1四半期連結会計期間より、当社の退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更しています。これによるセグメント情報に与える影響は軽微です。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

〔セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

当社グループは、ブライダルジュエリー事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。